

まだ花の少ない早春に、強い芳香を放って咲くのがジンチョウゲです。漢字では「沈丁花」と書きます。「沈香 (ジンコウ)」という香木と、「丁子 (チョウジ)」の香りを合わせたような匂いという意味だといひます。クチナシ、キンモクセイとともに、「日本三大芳香木」の一つに数えられています。

ジンチョウゲには雄株と雌株があります。もともと花や芳香を楽しむための庭木なので、花数が多い雄株が圧倒的に多く、雌株のジンチョウゲは見たことがありません。この点はキンモクセイと全く同じです。ジンチョウゲもキンモクセイもあれだけたくさん花を咲かせるのに、実 (果実) を見かねないのは、ほとんどが雄株だからです。ちなみにジンチョウゲの赤い実をつけ、有毒なのだそうす。

稀に白いジンチョウゲも見かけます。これは「栽培品種」の一つで、「シロバナジンチョウゲ」と呼ばれています。私が以前住んでいたマンションの植え込みにもあったし、大学構内にもあります。いつか、これらの「雌株」が「果実」を探してみたいと思っています。

(2024年3月上旬/お茶の水女子大学構内)

